

勢崎橋北中で1年生65人をと話し、
前日、若者がSNSで書き、
県警はこうした講話を年
で約9万6千回開き、子と

沼田市利根町の住民や沼田高同窓会員らでつくる「新井耕吉郎顕彰会」が19日
に発足した。「台湾紅茶の父」と称される、同町出身の農業技術師で同国の紅茶産
業の発展に貢献した新井耕吉郎（1904〜46年）の偉業を後世に引き継ぎ、地
域の活性化や台湾との交流につなげていく。

新井耕吉郎顕彰会が発足

地域活性化や 現地交流模索 沼田

新井耕吉郎について講演する
手島さん(左)＝19日、沼田市
利根町の園原集会所

台湾の実業家、許文龍氏
から寄贈された新井の胸像
が立つ園原湖畔に近い園原
集会所で発会式が開かれ、
約30人が参加した。顕彰会
長に就任した星野本三さん
(沼田高同窓会長)は、新

井は17年に旧制沼田中へ入
学し、北海道帯広に進んだ
ことを紹介。「多くの縁
で顕彰会が発足した。力を
合わせ、新井先生の偉業を
末永くいろいろな人に広め
ていきたい」と語った。

顕彰会事務局を老神温泉
観光協会に置いた。本年度
の事業計画では、新井に関

する調査研究や啓発、胸像
がある園原運動公園の整
備、展示コーナー設置、台
湾との交流などを掲げた。

新井の業績を調査する群
馬地域学研究所代表理事の
手島さんが講演。新井は
日本統治下の26（大正15）
年、台湾へ渡り、戦後も同
国に残り台湾紅茶を開発し
たことを話した。「新井に
は（札幌農学校2期生の）
内村鑑三、新渡戸稲造の精
神が息づき、内村が言った
『後世への最大遺物』が台
湾紅茶だった」と語った。

在日ビルマロヒンギヤ協会

迫害の現状訴える

難民の日前に館林で会見

世界難民の日（6月20
日）を前に、在日ビルマロ

ヒンギヤ協会（館林市、長
谷川健一会長）は19日、市

その上で「沼田が生んだ
偉人の胸像は日本と台湾が
良い歴史を共有し、21世紀
を生きる姿勢を示す。この
地域から未来が開けてい
く」と顕彰会の活動に期待
した。

この日は新井の命日で、
発会式後、参加者が胸像前
に移動し、ポピーを供えた。
県台湾総会事務局長の須彦
守真さんと、唱歌「浜辺の
歌」故郷」と台湾民謡「望
春風」を歌った。
(紋合貴史)

「台湾紅茶の父」偉業継承



中幕 借しむ客連常 72年の歴史に

老舗衣料店、タカハシ
本店（高崎市鞆町、高橋哲
人社長）が展開する同所の
「本店タカハシ」高崎店が

19日閉店し、72年の歴史に
幕を閉じた。多くの市民に
親しまれたが、建物の老朽
化や利用客の減少などを受



けて中心市街地から撤退。
最後の営業日には常連客ら
が訪れ、名残を惜しんだ。
「本店タカハシ」の本店
に当たる高崎店は1950
年に同市本町から移転し、
72年に現在の建物が建てら

最後の利用客を見送る
橋社長ら(午後6時)と
れた。低価格販売で女性
中心に支持を集めた。1階
で婦人服、2階で紳士服
などを扱う。3階より上は
事務所や倉庫だが、35年ほ
前までは利用客の休憩所
などを備え、市民の憩いの
場となっていた。

WORLD REFUGEE DAY 2022 JUNE 20 世界難民の日

内の同協会事務所を
を開き、ミャンマーのイ
ラム少数民族のロヒンギ
ヤが同国で迫害されてい
る状況を説明した。ロシアの
侵攻を受けたウクライナか
らの避難民が日本国内で